

北朝鮮人道支援の会 ニュースレター NO.50

(朝鮮民主主義人民共和国)

編集・発行人 吉田康彦

〒330-0855 さいたま市大宮区上小町1145 TEL:048-641-8203 FAX:048-647-6191

E-mail: yy2448@chive.ocn.ne.jp URL: http://www3.ocn.ne.jp/~yy-dprk/

郵便振替番号: 00140-4-126579 加入者名「北朝鮮人道支援の会」

2007年11月1日

【現地報告】

水害被災地に届けた日本の善意

コリア子どもキャンペーン事務局長 筒井 由紀子

北朝鮮を襲った全国規模の集中豪雨。その被災者に支援を届けるため10月24-27日訪朝した。8月に訪問した際に医療施設も大きな被害を受け、衛生状況が悪化したため、病気が蔓延しないように医薬品が特に必要とされていると聞き、帰国後、各方面に支援を呼びかけた。

この呼びかけに「南北コリアと日本のともだち展」実行委員会で活動をとめている『北朝鮮人道支援の会』をはじめ、これまで人道支援のネットワークを作ってきたNGO8団体が「北朝鮮水害復旧支援キャンペーン」を立ち上げた。

支援に向かったのは、私たちがこれまでに何度も支援に訪れた江原道。今回、死傷者の大半を占めたのも江原道である。大きな崖崩れ、河川と貯水池の決壊が数カ所で行ったためだ。日本から持参した医薬品と携帯できる高性能浄水器2台のほか、平壤で購入したドイツ製医薬品やビタミン・ビスケットなど300万円相当の物資を車に詰め込んで現地に向かった。

平壤から元山まで普段は3時間の距離だが、途中被害が大きかった平安南道の谷山郡・新坪郡などを通るため、いつもは真直ぐ進むだけの道なのに、谷山郡の街中を抜け、新坪郡の峠を越えなければならぬ。美しい錦秋の山あい抜けて元山に着いたのは夜の8時を過ぎていた。

元山の江原道人民病院を訪れた。江原道の診療システムの頂点にあるこの病院は、道内の医療施設に医薬品の配分を行っている。郡の病院、里の診療所では手に負えない重症患者が運ばれてくるし、各地域に医師を派遣することもあるそうだ。院長の権英俊さんの話では、今回の水害でも10名からなる医師団を4カ所に派遣し、1カ月ほど被災地で負傷者の治療に当たっていたという。今も重症の被災者が入院しており、その中の何人かに話を聞いた。

ヒョン・チュノクさん(農場員女性:42歳)。イチョン郡の家の近くに大きな川がある。これまでは溢れたことがないのに雨が降り続いて急に土手が壊れ、溢れた水が家の中まで入ってきて頭や体に打撲を負った。今でも眠れないことがある。

チュン・チャンボクさん(中学校職員男性:30歳)。ヘヤン郡に住んでいる。意識を失い、水に流されているところを助けられた。頭を打撲し、肋骨を骨折した。手に添え木をあてられ、頭に包帯を巻かれている姿が痛々しい。皆はじめは緊張した様子だったが、通訳が「この人たちは支援物資を届けにきたので、悪い人ではありませんよ」と声をかけると笑顔を見せてくれた。

病院には必要とされている点滴用の栄養剤、抗生物質製剤、急性胃腸炎の薬などを届けた。江原道は水害の被害が多いところだ。汚染された川の水でも飲めるようになるという最新式の

携行用浄水器は、次の災害時に現地に持参して使用したいといっていた。

次に江原道育児院を訪れた。親が死んだり、育てる人のいない子どもを預かっている孤児院だ。今回だけで28人の子どもを引き取ったという。怪我をしていた子もいた。乳飲み子もいる。2-3歳の子どもたちは物心もついているだけに大変だ。親を探して泣き明かす子どものことを思うと心が痛む。ここでは総合ビタミン・ビスケット50ケースを届けた。【下の写真、右が筆者】



平壤では朝鮮赤十字会の李虎林さん(社会医療奉仕部長)から現状を聞いた。死者・行方不明者が600人を超え、完全に家を失った人が17万人という大災害だったが、ようやく安定を取り戻した。道路はほぼ復旧したが、鉄道と電気はまだ完全ではない。冬に向かって住宅建設が緊急課題だが、復旧作業が各地で同時に行われているために、セメント、鉄筋、木材などの資材と輸送手段の不足など問題は多い。国家としても総力をあげて復旧作業に取り組んでいるが、今後、食糧不足が深刻になる。全農地の11%が冠水したので、これらの地域からの収穫は全く見込めない。今年は雨が多く、日照不足が続いたため、「食糧事情は過去数年間で最も困難になる」というのが李虎林部長の分析だ。

江原道人民病院には医師が集まってきて、熱心に支援物資の薬品を手にとり見ていた。薬剤師が「私は日本語がわかります」と言って、むさぼるように日本から持参した抗生剤の説明書を読んでいた。携行用浄水器の使用法などわかるだろうかとか心配していたが、日本語の説明書が読めるなら安心だ。地理的に近く、歴史的にも関係の深い日本と朝鮮ならではの事実だ。

元山港には、行き場を失った「万景峰号92」がひっそりと停泊していた。今回は空路、中国経由で首都平壤に入り、そこから復旧していない山道を越え、やっとここまで支援物資を運んできたのだが、日本から船が出れば、もっと多くの人たちを救うことができるだろう。今からでも遅くはない。これから厳しい冬が来る。食糧・医薬品・日用品・燃料など「命をつなぐ」多くのものが現地で必要とされているのだ。

【報告】

第11回「日朝友好稲刈り」を終えて

「平和の糧」主宰 伊関 要

北朝鮮に対する日本政府の制裁措置延長が閣議決定されるなか、10月21日、11回目の日朝友好稲刈りが行われました。「日朝の老若男女が汗を流し育んだ友好の実り・人道支援米を送らせろ！マンギョンボン92号を入港させろ！」のかけ声のもと意気軒昂に刈り入れ作業は進みました。



大阪府北端、能勢の里山に水田を借り、「平和の糧」と朝鮮総連西大阪支部の日朝共催による支援米作りは、様々な困難を

乗り越え11年目を迎えました。今年は、昨年から続く制裁措置のため、マンギョンボン92号で送る予定の去年の支援米すら未だに送れないまま今回の稲刈りを迎えたのです。参加者のあるオモニは、「私の兄弟2人が朝鮮で暮らしています。今、大水害で困っています。ほんとうに心配です。何とかして食べ物や着るものを送ってやりたいのです。飛行機で送るとなると莫大なお金がかかってとても無理です。なんとかしてマンギョンボン号で送ってやりたいのです」と涙ながらに訴えていました。政府の制裁措置延長は、マンギョンボン92号の往来を差し止め、オモニの気持ちを裏切り、人道支援の本旨に反するだけにとどまりません。具体的に、第6次6者協議合意文Ⅱの2「北朝鮮と日本は、ピョンヤン宣言に従って不幸な過去を清算し懸案事項を解決することを基礎として早期に国交を正常化するため誠実に努力する。北朝鮮と日本は、そのために両者間の精力的な協議を通じ、具体的な行動を実施していくことを約束した」に違反しています。

また、先日の金正日国防委員長と盧武鉉大統領の歴史的な首脳会談と首脳宣言は、緊張と対立の時代の終わりを告げています。平和・安定に向おうとする東アジア情勢に、ひとり日本だけが、6者協議の合意に反し制裁延長を振りかざし緊張・対立を持ちこむことは、単なる国家エゴにとどまらず国の未来を誤ることだと思えます。だからこそ、私たちは諦めません。11年間はぐくみ続けた友好の実りがあります。この実りは、人道支援の本旨に則り、マンギョンボン92号で朝鮮へ送り届けたいと思います。皆さん共々友好の航路を切り開きたいと思います。

晴天に恵まれ、順調に刈り取りを終えると、焼肉をつまみながら祝杯を挙げて収穫祭。アピールあり、歌あり踊りありで笑い声が絶えませんでした。子供たちは農道をグラウンドに運動会で大はしゃぎ。たとえ状況が厳しくとも、いや厳しければ厳しいほど、庶民レベルでは朝鮮人と日本人はこんなにも仲よく強いき

ずなで結ばれるのだということを実感しました。ここに日朝友好の原点、国交正常化の未来を見る思いがしました。

通信欄

会費・義援金・寄付金ありがとうございます。

10万円を「水害復旧支援キャンペーン」(本会も参加している市民団体合同支援運動)に寄贈しました。その成果が1面の筒井由紀子さんの現地報告です。ご支援に感謝します。

引き続き、水害復旧支援の特別カンパにご協力ください。

以下はニュースレター前号(2007年9月1日付)刊行以来、会費・義援金を納入して下さった方々です。(納入日付順・カッコ内は金額)

【年会費・水害義援金】

志村保夫(3000円)、大原美香(3000円)、手束光子(3000円)、田中勝男(2000円)、温井立央(10000円)、杉山 淳(2000円)、大城 洋(5000円)、米田伸次(10000円)、匿名希望(5000円)、金木節子(2000円)、伊藤成彦(2000円)、亘佐和子(5000円)、嶋矢育子(5000円)、秀村冠一(3000円)、大久保敏明(3000円)、李 武一(5000円)、高橋秀典(2000円)、坂下康子(2000円)、並木 薫(3000円)、安 昌浩(3000円)、匿名希望(5000円)

累計人道支援基金・運用資金 9,349 円

(2007年10月末日現在)

前号に引き続き、水害見舞のため再訪朝した筒井由紀子さんの現地ルポを掲載しました。8月に北朝鮮を襲った豪雨の被害は甚大で、穀物100万トンの不足が見込まれていますが、国際社会の支援も不十分というのが現状です。

なお基金が極端に減少したのは、4月に訪朝団を派遣したあと、水害復旧見舞キャンペーンに拠出し、その間ニュースレター制作・印刷・発送費用関連の支払いが常時必要なためです。

当会の年会費2000円は「ニュースレター」の購読料金で、会員としての最低限の拠出額です。年間の編集・印刷費用、郵送料、事務経費で、ほぼ相殺されます。2000円に上乗せして送金して下さる額が人道支援の基金です。金額は自由ですが、なるべく多額のご寄付をお願いします。寄付は常時受け付けています。

会員からの近況報告(投稿歓迎):

- * 前号の筒井由紀子さんの北朝鮮水害報告に衝撃を受けた。福田首相になっても日朝国交正常化に弾みがつくとは思えない。日朝関係すらアメリカ頼みになるとは情けない。(岡崎市在住・大久保敏明)

吉田康彦『米朝・日朝関係』講演日程 (右は問合せ先)

11月10日 17.30 博多全日空ホテル2F TEL 092-271-1087
11月15日 18.30 神戸/神仙閣神戸店 TEL 078-251-3681
11月16日 19.00 エル大阪 TEL 06-6328-2551
11月17日 13.00 損保会館(東京神田) TEL 03-3255-1299
11月29日 19.00 生野商工会(大阪) TEL 06-4306-6333
12月22日 13.00 専修大学(東京) TEL 090-2667-6963